

事例番号:360213

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第一部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 28 週 4 日

20:50 破水のため搬送元分娩機関を受診

22:20 前期破水、骨盤位の診断で当該分娩機関に母体搬送となり入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 28 週 4 日

23:41 前期破水、骨盤位の診断で帝王切開により児娩出、単殿位

胎児付属物所見 胎盤病理組織学検査で絨毛膜羊膜炎 Stage II (Blanc 分類)

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:28 週 4 日

(2) 出生時体重:1100g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.37、BE -2.1mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 3 点、生後 5 分 7 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 早産児、極低出生体重児、新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

2 歳 7 ヶ月 頭部 MRI で脳室周囲白質軟化症の所見

## 6) 診療体制等に関する情報

### <搬送元分娩機関>

- (1) 施設区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師: 産科医 1 名  
看護スタッフ: 助産師 1 名、看護師 2 名

### <当該分娩機関>

- (1) 施設区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師: 産科医 3 名、小児科医 1 名、麻酔科医 3 名  
看護スタッフ: 助産師 1 名、看護師 2 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠経過中から出生までのいずれかの時期に生じた胎児の脳の虚血(血流量の減少)により脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことである。
- (2) 胎児の脳の虚血(血流量の減少)の原因を解明することは困難であるが、臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性を否定できない。
- (3) 子宮内感染が PVL の発症に関与した可能性を否定できない。
- (4) 早産期の児の脳血管の特徴および大脳白質の脆弱性が PVL 発症の背景因子であると考えられる。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

- (1) 搬送元分娩機関における妊娠 28 週 4 日、前期破水にて受診後の対応(バイタル測定、内診、破水の確認、超音波断層法実施、分娩監視装置装着)は一般的である。
- (2) 前期破水、骨盤位の診断で当該分娩機関に母体搬送としたことは一般的で

ある。

- (3) 当該分娩機関における入院後の対応(ハイタルシ測定、血液検査実施、膣分泌物培養検査実施、破水の確認、超音波断層法実施、分娩監視装置装着)は一般的である。
- (4) 前期破水、骨盤位と診断し、同日に帝王切開を実施したことは一般的である。
- (5) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (6) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

#### (1) 搬送元分娩機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

なし。

### 2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

#### (1) 搬送元分娩機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

なし。

## 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

### (1) 学会・職能団体に対して

- ア. 早産児の PVL 発症の病態生理、予防に関して、更なる研究の推進が望まれる。
- イ. 早産児の PVL の早期発見のため、頭部 MRI 実施のタイミングについての指針を周知することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して  
なし。